

月の館

信濃観月文庫

通信

麻績村

発行/信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村麻 8059-2

TEL・FAX (0263)67-3933

第29号

安南撫清琴

南 安
きみをやすんじてせいぎんをかなでる
清琴 撫



孟恒

麻績村
信濃観月苑
令和元年九月日



ポーランド ショパン

奥村 美佳

ワルシャワ生まれで最期までポーランド国の魂を持ち備えたショパン。しかしその才能たるや世界に知れ渡るものである。ショパンの死後、ある詩人が書き残した言葉通り二〇〇年経つ現在、九、〇〇〇キロ離れた日本でも愛され続けている。

「国を知るにはその国の一番厳しい季節に訪ねることだ」恩師の言葉に押されマイナス20度に包まれたポーランドに足を踏み入れてから三十年。ショパンという人物像、ポーランド国民の奥深さは計り知れない。

ワルシャワ時代幼少期のショパン家の屋敷には頻繁に外交官が集まりサロンを開いていた。その雰囲気はさぞ誇り高かったことだろう。夏は風の音の中で土仕事を営むワルシャワ郊外が避暑地だった。彼の作曲する土壌の舞踏マズルカ、哀愁をおびたノクターンには子供心に記憶した

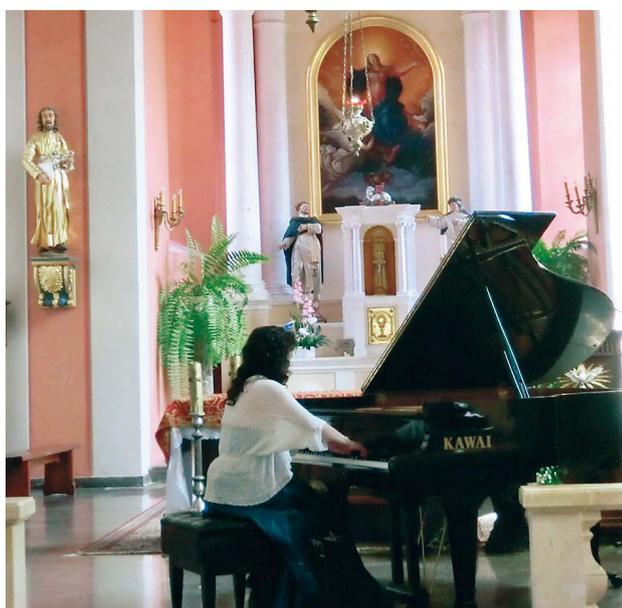
ポーランドが息づいている。

激動の時代に生きたショパン。ロシア帝国の支配下となり、ロシアの発行するパスポートが無ければ国を渡れない時代であった。フランスでの演奏を評価されたショパンはその許可をもらう権利を受けたが、愛国心のプライドが敵国にひざまずく事を許さず自らそれを拒否し、最期まで愛し焦がれた母国ポーランドの地に戻れなかった。

結核の病状が進むも、パリに住むポーランド人のため寄付を募る慰労コンサートは快く引き受けた手記が残っている。それがショパンの最後のコンサートになった。

ポーランド人は客人をもてなすことが好きだ。特別な祭日の食事には一席空席がある。突然の訪問客がきてももてなせるようにとの心配りである。

ショパンが洗礼を受けた教



会でのコンサートが終わり、
 帰途に着いた頃突然電話がか
 かってきた。今日のコンサ
 ーに魂が震え、どうかもう一
 度会いたいとのこと。翌日、
 サンドルにTシャツ姿でやっ
 てきて、自分が感動で涙を流
 したという古い詩集をいただ
 いた。感動を私と共有した
 からと。それだけのことで60
 キロ離れた私の家を訪ねてく
 れた。ここにポーランド人の
 姿が垣間見えるような気がし
 た。

コンサートの花道のように
 廊下の両側に僕の好きなすみ
 れを飾っておいてほしい。最
 期の住みかとなったパリのア
 パートでは、もう介助なしで
 は歩けなかった。ひと部屋に
 は削り整った鉛筆と五線紙が
 きちんと机にのっていたとい
 う。書けるかもしれない、と
 いう思いが伝わってくる。
 人間が好きで自然の美しさ
 が好きで自尊心の高いポーラ
 ンド人。そんな一人、シヨパ
 ンという人物の謎解きの旅は
 まだまだ続くであろう。

奥村美佳略歴



ピアニスト。
 日本シヨパン協会長野支部顧問

草木屋の百色

初心の白

山崎 樹彦

草木屋の軽井沢夏季店を祖父山崎斌が始めたのは昭和8年でした。戦中戦後一時中断しましたが、山崎敏子、山崎桃麿に引き継がれ、その後、私も十数年間、夏はほとんど軽井沢で過ごしました。その間、熊野神社を国境にする旧碓氷峠のほうにも何度か足を向けましたが、峠といえば、旧国道の碓氷峠（旧道）がいつも意識されたものでした。住んでいた高崎と軽井沢の間の数え切れない行き来の中、道沿いに浮かぶ木々の重なりや差し込んでくる光の美しさは、つづら折りの峠道の中で、様々な角度から表情を見せては消えていくのです。また、この山道の朝の霧は魅力的なものでした。霧がこの道と周囲の山や谷を覆い尽くすと、私自身のその時々のお気持ちが霧の中に溶け込んでいくような錯覚に陥るのです。

高速の上信越道が出来てからは、もう一つの国道、碓氷バイパスの交通の流れがよくなり、迂回してくる車もなく、坂本の集落から続く旧道の早朝など忘れ去られた道のように感じられます。時には車を道端の駐車スペースに止め、ゆつくりと霧の流れを楽しむことにしています。そのイメージとスケッチをもとに型染の着物を作りました。峠の連なった木々の型紙を2種類作り、松煙で重ね染めをしたものです。一回目の染は遠景の濃淡、二回目は近景の木々の濃淡を染めました。近景の一部には椀（茶色）とエンジユ（黄色）を使い、木肌と葉の間近の色を表しました。白生地は「青白」という繭から作った一越です。青みのある微かな凹凸が霧の深さを表してくれているようです。着物の名を「峠」としました。

白度の高い繭「ぐんま200」の座繰り糸による帯の白生地が出来上がると、創りたくなかったのは、白を表す染でした。思い描いたのは芽の膨らんだ桜の枝に降り積も



雪桜

る春の雪です。雪の部分に糊を置き、乾いた後、蕾と枝の部分にラック(赤)と松煙(墨)で摺り込みで染めました。雪が降り続く澄んで水気のある空気は、五倍子(紫鼠)の青みのある二番液で表し、糊の部分が真白くなるように浸し染にしました。帯の名を「雪桜」としました。

普段、行き来している群馬や長野、秩父の山間部では、冬場に小さな流れが凍ったり、水のしみ出している沢沿いの崖に氷柱がかかり、時に延々と続く氷壁になっているところがあります。たまたま道を外れて入った小道から下る沢沿いに立派な氷柱の群れを見たことがあります。氷はその凍り方によってか、また光の具合によってか様々で微妙な色をしています。その表現には染めるよりも色を抜く手法を用いました。もっとも白い部分は糊を置き、五倍子で浸し染めをすることによってあらわしましたが、他の白



に近い色は五倍子で一度染めた布の上に様々な濃度のクエン酸を加えた糊を型紙を違えて置き、乾いた後に糊を洗い流します。五倍子の色素の発色は色素に鉄が化合することによって成り立ちますが、クエン酸はその結合を解いてしまふ物質です。鶯の糞などが昔、色抜きに使われたといわれますが、クエン酸や尿酸などの有機酸が同様の効果があることが知られています。濃度によって色の抜け方が違うので、それぞれの濃度の糊ごとに色合いの違う氷が出来上がりました。

染色は古代、生地が晒され、白が生まれたことから始まったといわれています。白は染の始まりであり、白を意識した染色をするときは、私も無意識のうちに、その晒された素材自体をより吟味しているようです。

また、白は様々な彩を与えることのできる基の姿なのでしょう。見続けていると霧の



中に迷い込んでしまうような不安感も、積み上げてきたものや自分自身への否定ではなく、初心に戻って、周りの気を吸い、新鮮な気持ちにさせるためのリセット効果なのでしようか。包み込まれてしまいう霧に一時身を任せての放心の時間が、たまには必要なのなのだと思っています。

山崎 樹彦

(やまざき たてひこ)



一九五八年 群馬県高崎市生まれ
 一九八二年 北海道大学理学部卒業
 父、山崎青樹の経営する草木染研究所に入所
 実務を担当していた叔父、篠崎節に草木染及び草木染型染を学ぶ
 二〇一一年 群馬県富岡市妙義町に移住

風土に根ざした草木染の確立に向けて研究、創作を行っている
 草木屋代表、草木染伝習所主宰

ギャラリー展

予定は変更になることがあります。

草木屋 草木染展

6月14日(日)～6月28日(日)

出展／山崎樹彦・澄子

山崎杜人・山崎美季・山崎 梢

江間廣・凡俱樂部作陶展

7月1日(水)～7月20日(月)

出展／江間廣・陶芸教室会員

日達れんげ きりえ・日本の四季、しつらい展

7月23日(木)～8月17日(月)

出展／日達れんげ・チャールズ日達

更級花織工房展～あんずのいのちを絵餅に織る～

8月22日(土)～8月31日(月)

出展／窪田孟恒

窪田紘子

協力 永岡真由美

岸田怜作陶展

9月5日(土)～9月23日(水)

出展／岸田 怜

天山窯 一條隆好作陶展

9月25日(金)～10月12日(月)

出展／一條隆好

ステンドグラス&ガラスアート展

10月15日(木)～10月26日(月)

出展／山口利一

ギャラリー展は4時30分まで、展示最終日は午後3時までです。

冬期間や空いている間に、お宝展、俳句作品展、草木染の展示をすることがあります。

貸館も致します。

観月苑文化講座

参加者募集中

予定は変更になることがあります

山口勝人写真教室【第1土曜日】

14:00～16:00

会費／前期・後期とも

各5,000円

講師／安養寺住職山口勝人

芭蕉講座【第3木曜日】

10:00～11:30

会費／月1,000円

(前期・後期とも各6,000円)

講師／「岳」同人窪田英治

「奥の細道」を読んでいます

楽茶碗をつくりましょう!

【2回シリーズ】

6月9日(日)・20日(日)

定員 10名 両日とも1日かけて行います

会費／材料費含め1,800円

講師／天山窯 一條隆好先生

初心者、実作者のための俳句講座(二回)

【夏を予定】

会費／1,000円

講師／「岳」編集長 小林貴子先生

を予定しています

催し物 案内

予定は変更になることがあります。

第28回月の里俳句作品募集

募集締切 **8月31日**

変更はありません。

大人 3句一組（何組でも可） 投句料／1組 1,000円

高校生は投句料無料

こども おおむね小学3年生～中学生 2句まで 投句料無料

選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子

「黒姫」主宰・神田北童

「岳」編集長・小林貴子

「梟」同人・水上孤城

第20回曼陀羅の里お月見俳句大会

10月10日

予定は変更になることがあります。

13:00～16:00

当日句 2句一組（自由題）

会費／1,500円

（投句料・聴講料・昼食代）

選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子

「黒姫」主宰・神田北童

「岳」編集長・小林貴子

「梟」同人・水上孤城

茶室清香亭月釜

松林のなかの茶室にて季節のお点前をお楽しみください。

時間 10:00～14:00 日時は変わることがあります。

会費／一席 600円

点心&お抹茶 2,500円（要予約。3名様以上）

5月24日 表千家流 清流会矢口社中（筑北村）

6月7日 裏千家 島津宗純社中（長野市）

6月21日 石州流 芳香庵松悠（筑北村）

煎茶道 黄檗東本流 長瀬鶴早（中野市） 耕月軒

6月28日 表千家流 鈴木康之（名古屋市） 濃茶

9月13日 表千家流 中曾根宗美社中（上田市） 耕月軒





みんなで歌いましょう！ 合唱指導とテノール独唱

6/7 日

14:00
～16:00

場所／月の館大寄せの間

講師●テノール独唱／島津 和^{しまづ}平^{かずへい}

ピアノ伴奏と独奏／津金 真裕美
(武蔵野音大卒・ピアノ講師)

インドネシアとインド舞踊の会

8/23 日

出演者等変更になることがあります

14:00～15:30



場 所／月の館大寄せの間

インドネシア舞踊／宮下テウィ (インドネシア舞踊 ヌサンタラ)

インド舞踊／阿保和華子・窪田汐里・戸塚美穂・宮田亜紀・森川邦子
(南インド舞踊ヌリッティアンジャリ舞踊団)



奥村 美佳^{おくむら みか}ピアノコンサート

9/6 日

場 所／月の館大寄せの間

参加費／おとな 1,500 円 ピアノ／奥村 美佳

14:00
～15:30

遠山 望^{とお やま のぞみ}・今井 千波^{いま い ちなみ} デュオリサイタル

11/7 土

場 所／月の館大寄せの間 参加費／おとな 1,500 円

サクソフォン／遠山 望 ピアノ／今井 千波

ゲスト●フルート／鶴沢 志保

演奏予定曲目 ソナタ (モーツァルト)

美女と野獣 (メンケン)

14:00
～15:30



第二十七回 月の里俳句入選作品

一般の部

佐藤文子選

特選

向日葵の咲き満ちて闇作りをり
伐採の大樹を悼む蟲時雨

青柳 可連
飯島千花梨

秀逸

松蟬の声一山をはみ出しぬ
風なくば踊つてくれぬ踊り子草
終戦日誰かうしろを付き来たる

吉田 春子
古坂 房
久根美和子

特選

麻績の月づかど寄り来る牛の息
英霊の海を焦がして揚花火

吉澤 利恵
黒沢 孝子

秀逸

特老の窓にサルビア燃え盛る
広げれば木曾の山の香朴葉鮓
松蟬の声一山をはみ出しぬ

中村 百仙
新島 俊哉
吉田 春子

神田北童選

特選

ひまわりが太陽を見て笑つてる
朝顔を近くで見れば星の花

麻績小学校 五年生 高沢 楓香
共和小学校 三年生 石井 里奈

秀逸

きもだめし見上げた夏の夜星がちる
静寂の暗闇照らす星の海
オレンジと黄色がまぎって秋の空

筑北小学校 五年生 柳澤 紫野
共和小学校 六年生 渡邊 瑛太
麻績小学校 四年生 田中 真志

特選

夜桜が月にてられ咲きはこる
シヤボンだまきれいなまるができました

坂井小学校 六年生 宮坂 真由
共和小学校 一年生 やまだのあ

秀逸

せみ鳴いた精一杯に七日間
雪がふるしんしんと雪がふる
通学路見わたすかぎり稲穂かな

坂井小学校 五年生 太田しおん
共和小学校 五年生 戸澤 唯愛
麻績小学校 四年生 吉野 円寧

小林貴子選

特選

誰とても仲良くなる子螢草
新涼やインド孔雀の無愛想

栗原利代子
黒沢 孝子

秀逸

生きてゐて死の冷たさや青大将
山の端の雲外したし月今宵
浅間山噴火目先に雹が降る

小谷 一夫
堀内 道子
小伊藤美保子

特選

終戦日誰かうしろを付き来たる
同じ事母がまた訊く端居かな

久根美和子
古林 孝子

秀逸

爪先で拍子とる子や秋の蟬
ワインセラー自動ピアノの音涼し
青空へ筋肉質な花梨の実

志村寿美代
黒沢 孝子
佐藤 きく

水上孤城選

特選

夏休みせまる宿題トラのよう
せみおとこくつついていたあしのした

共和小学校 六年生 宮下ひより
共和小学校 二年生 さとうしゅうた

秀逸

きもだめしかがみにうつるきみはだれ
水に水重ねて暗し梅雨の川
海苔手波打ちぎわで泳ごうか

坂井小学校 四年生 西原 己桜
麻績小学校 五年生 花岡 拓海
共和小学校 四年生 高野 彰翔

特選

水に水重ねて暗し梅雨の川
緑陰や風がそよそよ自由だな

麻績小学校 五年生 花岡 拓海
共和小学校 四年生 宮原りゅう希

秀逸

紅葉の混じりて紫にじむ空
たんぽぽははわはわあたまでたびにでる
耳すますふうりんの音風の声

共和小学校 六年生 嶋居 望乃
共和小学校 三年生 宮崎 真湖
坂井小学校 五年生 宮坂 栄寿

神田北童選

佐藤文子選

水上孤城選

小林貴子選



耕月軒の降りつくばい

耕月軒の楓

小学生の部

信濃観月苑をご利用ください

広く文化活動や研修会、お茶会等にどうぞ
お問い合わせ・ご予約 TEL/FAX 0263-67-3933
メール kangetsu@vill.omi.nagano.jp

小間の茶室「清香亭」

■利用料金/1会 10,000 円



ギャラリー

展示発表の場としてご利用ください。

■利用料金/半日 5,000 円・1日 10,000 円



観月堂

お茶会、句会、月見の宴などにご利用ください。

■利用料金/半日 5,000 円・1日 10,000 円



大寄せの間

(2F 40 畳和室) ステージ付

お茶会、お稽古、句会、研修会、コンサート会場などに
ご利用ください。

■利用料金/半日 3,000 円・1日 6,000 円



広間の茶室「耕月軒」

■利用料金/半日 5,000 円・1日 10,000 円

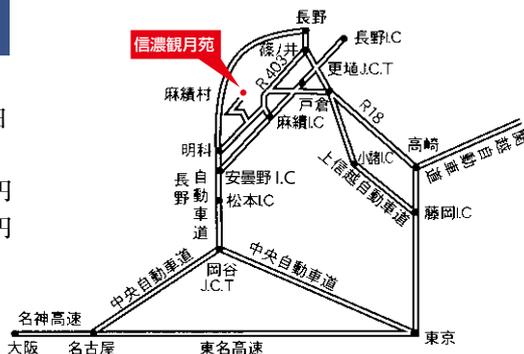
お抹茶 600 円 (要予約)
点心 2,000 円 (3名様より。要予約)

グランドピアノ KAWAI GM-10 ご使用時
■利用料金/半日 5,000 円・1日 10,000 円

信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村麻8059-2 〒399-7701
TEL/FAX (0263) 67-3933

開苑時間 午前9時～午後5時
休苑日 毎週火曜日 (火曜祝祭日は開苑、水曜休苑)
入場料 個人 高校生以上 300 円
 小人 150 円
 団体 20名以上2割引



麻績村のホームページ <http://www.vill.omi.nagano.jp>

表紙/大変な事態が次々に押し寄せる。大切な誰かの平安を願う日々。